

○汚染物質立体的分布分析の結果について（前回資料抜粋）
※第38回評価委員会 資料5より抜粋した図を掲載

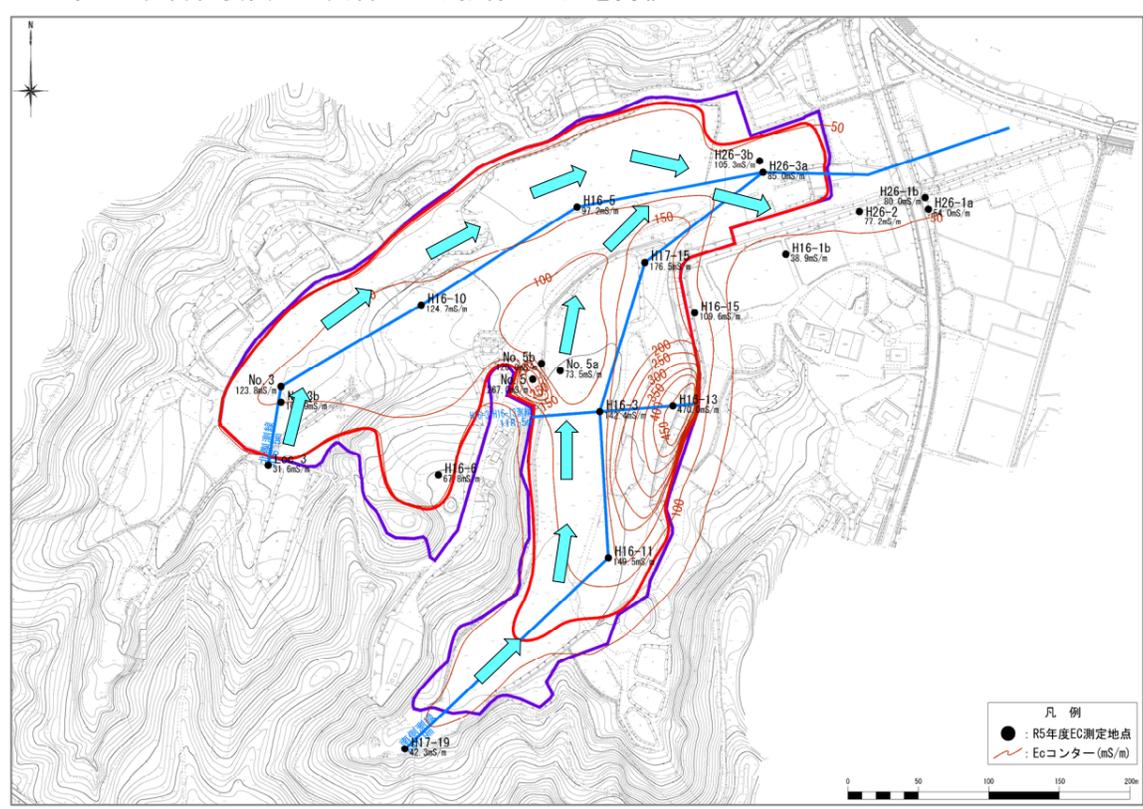


図1 電気伝導率分布図・地下水流向想定図

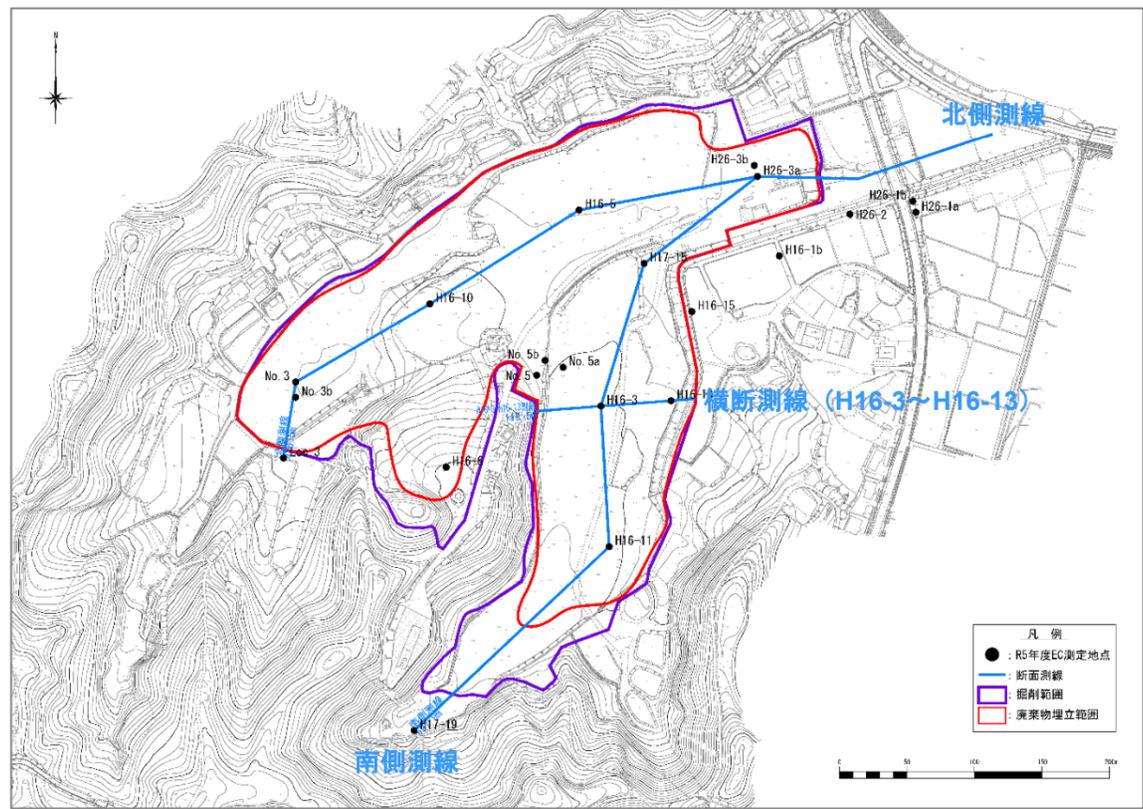
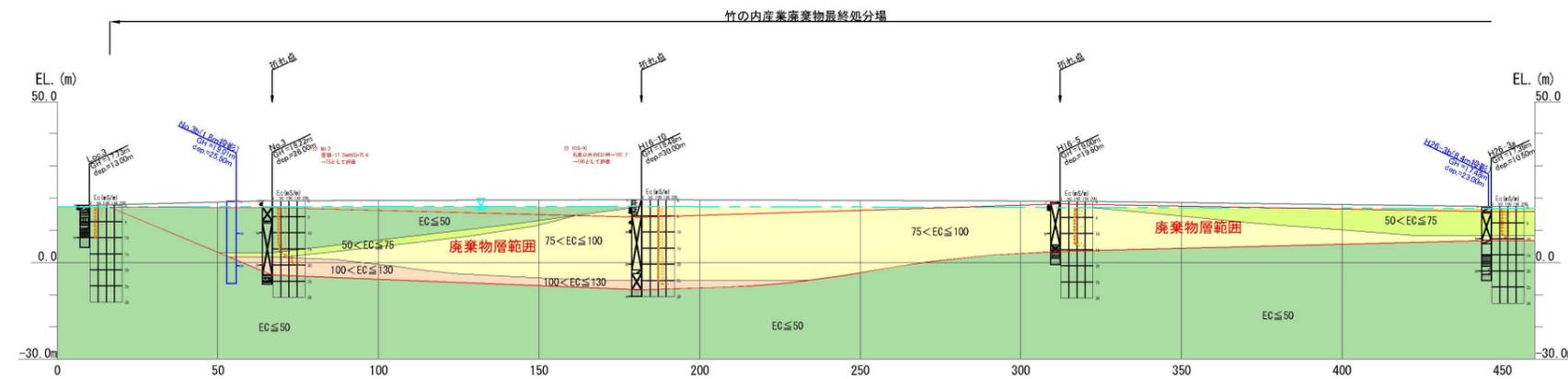


図2 断面位置平面図

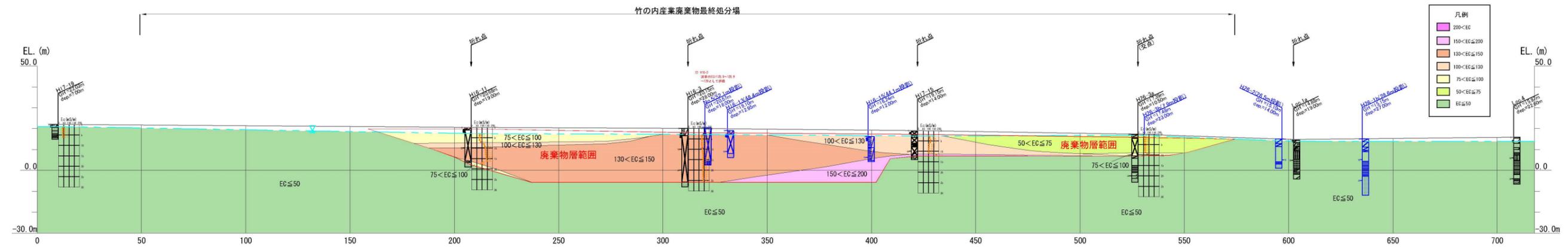
北側測線



- 凡例
- 200 < EC
 - 150 < EC <= 200
 - 130 < EC <= 150
 - 100 < EC <= 130
 - 75 < EC <= 100
 - 50 < EC <= 75
 - EC <= 50

上流側ではバックグラウンドレベル (50mS/m) であるが、全般には 100mS/m 未満のゾーンが広がる。一方、廃棄物層分布が深い上流側の底部付近は 100mS/m を超える部分が一定層分布すると推定される。

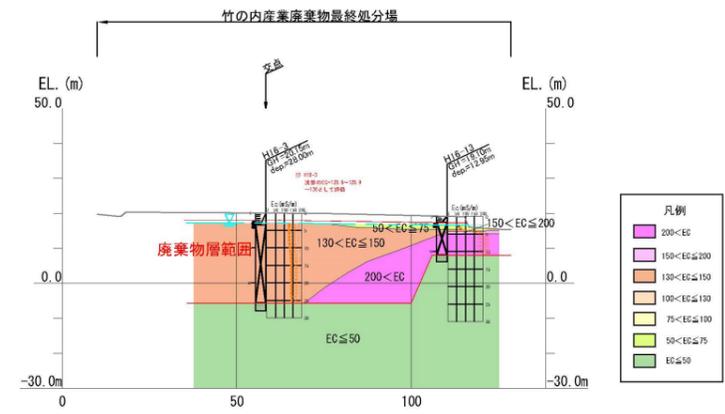
南側測線



- 凡例
- 200 < EC
 - 150 < EC <= 200
 - 130 < EC <= 150
 - 100 < EC <= 130
 - 75 < EC <= 100
 - 50 < EC <= 75
 - EC <= 50

廃棄物層分布範囲ではバックグラウンド値を超えている。特に廃棄物層分布が深い H16-11~H17-15 間では浅部と深部の電気伝導率で明確な差がみられる。浅部で比較的濃度が低くなるのは、地下水流下の影響と考えられる。

H16-3-H16-13測線



- 凡例
- 200 < EC
 - 150 < EC <= 200
 - 130 < EC <= 150
 - 100 < EC <= 130
 - 75 < EC <= 100
 - 50 < EC <= 75
 - EC <= 50

南側測線で特に電気伝導率が高かった箇所の横断位置にあたる。H16-13 では特に電気伝導率が高い。一方で H16-3 の西側下流の No.5a では 100mS/m を下回っているため、当横断位置では西側に地下水移動があるものと推定され、東側ではほとんど地下水の移動がないと考えられる。

図3 電気伝導率断面図